

7. 言葉遣い

コミュニケーションの基本

私たちは言葉で日頃から周囲の人と交わっています。言葉は、自分の気持ちや考え、感情までも相手に伝え、人との関わりを深めることのできるコミュニケーションの基本です。大人になるということは、人と人との付き合いがきちんとできること、そのとき大切になるものが言葉遣いであるということ子どもたちにしっかり認識させたいものです。



家庭の中での言葉遣いを大切にしていますか？

子どもたちの言語環境を考えたとき、言葉について学習する機会が多い場所は、家庭と学校です。特に家庭で、おじいちゃん、おばあちゃんをはじめ世代の異なる人との会話、親との会話により言葉遣いを学んでいるのです。“家族だからそんなに言葉遣いに気を遣わなくてもいい”という考えもあるかもしれませんが、いかがなものでしょうか。“家庭こそ言葉遣いの基礎を学ぶ場”なのです。家庭は“子どもたちの言葉遣い”について考え、適切な言葉の表現を身につけさせる場なのです。

ひとつの重み

たったひとことが相手の心を傷つけ、たったひとことが相手の心を勇気づけることがあります。「言葉は使い方次第で良薬にも毒薬にもなる」ということです。中学生は誰にでも、友人の何気ないひとことで、いたく心を傷つけられたり、その逆にとても大きな勇気や元気をもらったりといった経験があるはずです。そのような経験を語り合い、言葉の持つ重みを親子で共有したいものです。

私たち大人が見本となっていますか？

時々、子どもには聞かせたくないような乱暴な言葉遣いをしたり、丁寧な言葉を使って話そうとしない大人がいたりします。親が子どものことをいつも意識して日頃の言葉遣いに注意している場合と、自分の思いに任せた自由勝手な言葉遣いをする場合とでは、子どもが身につける言葉遣いに違いが出ます。そして、言葉に対する意識、感性は大きく異なっていくものです。私たち大人は“言葉遣いは子どもにとって大切な言語環境である”ということをしっかり認識しておきたいものです。

気になる言葉遣いはその時に注意

“今の言葉はふさわしくないなあ、もっと他の言い方をしたほうがいいよ”という具合に、我が子の言葉遣いを注意した経験はありませんか。言葉遣いが悪い時に、そのまま何も言われずに済まされた子どもは、同じような場面でもまた似たような言葉遣いをするようになります。気になった言葉遣いはすぐその場で注意してあげ、より適切な表現を教えることが言葉の大切なしつけといえます。それをいつも実行したいものです。